

木下正道：「コール&レスポンス I」演奏者と聴衆のための

聴衆の数は不特定。3人以上30人までが望ましい。聴衆は任意に、右手ないし左手の指を用いて、1から5までを演奏者に指し示す。一度示したら10から20秒程度は保持しておくこと。適度な時間が来たら一旦手を下ろし、しばらく休んだのちにまた数字を指し示す。前のものと同じでも良いし、同じでも良い。これを演奏終了まで繰り返す。なお、演奏前に、短く「練習」をすべきである。

演奏終了は、演奏者の中の「リーダー」が時間を計測して決める。

一度に多くの人が数字を示す必要はない。大体4ないし5人の手が上がっている状態がよい。もっと少なくても良い。休みを多く取ること。

演奏家は、示された数字をもとに「あらかじめ自分がやるべきこと」を決めておく。これは演奏終了までいかなる他者にも示してはならない。

「やるべきこと」の例としては

○出された数字の合計が4の倍数ならばドの音を10秒伸ばす。5の倍数ならばレの音を一回だけ弾く。7の倍数ならばffで叫ぶ。

○特定の人が数字を示した場合のみffで演奏。それ以外は最弱音

○2を出した人が1人の場合はpizz、2人の場合はスピカート、3人の場合はアルコ、で開放弦を弾く。

などなど。または、出される数字は完全無視で「やるべきこと」を決めても良い。

演奏を開始してしばらくして、聴衆が、演奏者の「やるべきこと」が何か分かった場合、その演奏家に対して「こうこうではないですか?」と訊く。これが当たっていた場合は、その演奏家はそこで演奏を止める。当たっていない場合は無視して演奏を継続する。

演奏時間はとりあえず4分37秒とする。